

平成25年度

学校評価・
学校関係者評価
報告

石井小学校

I 学校評価の内容と方法

学校評価の方法として、次の2つを行った。

- ① アンケート調査による学校評価
 - ② 学校関係者評価
- それぞれにつき、その方法と結果を述べる。

II アンケート調査による学校評価

1 調査方法

- ① 調査用紙：教職員用，保護者用，児童用
- ② 調査法：マークシート法
- ③ 調査日：第1回 平成25年7月，第2回 平成26年1月

2 設問内容と集計方法

設問は平成22年度より11項目となり，問題内容も22年度より同一である。また，教職員用，児童用，保護者用とも同じ内容の設問とし，両者の比較ができるようにした。

また，選択肢は，A「そう思う」 B「だいたいそう思う」 C「あまりそう思わない」 D「そう思わない」の4段階とした。

なお，1年生については，児童への1学期の調査は難しいと判断し行わなかったが，第2回は実施した。

児童用の調査については，インフルエンザの流行や，その他の事情により，どうしても調査ができなかった児童がいる。また，保護者については，兄弟がいる場合には児童ひとりずつについて回答をお願いしたが，全員に提出してもらうことはできなかった。

調査結果については，保護者用，児童用ごとに学年別に集計し割合で表した。教職員用は別に集計した。

考察では，第1回と第2回のデータを並べて提示し，共通する傾向や，第1回目から第2回目へ，どのような変化があったかを比較し，改善できた点，改善しきれずこれからの課題として残っている点について示した。

11項目の設問内容は，次の通りである。

〈設問1〉

子どもは，楽しく学校生活を送っている。(教職員用)

毎日学校が楽しい。(児童用)

子どもは楽しく学校生活を送っている。(保護者用)

〈設問2〉

「おはよう」などのあいさつや，「ありがとう」「ごめんなさい」などのあたたかい言葉づかいができています。(教職員用)

「おはよう」のあいさつや「ありがとう」「ごめんなさい」のあいさつが言えている。(児童用)

「おはよう」のあいさつや「ありがとう」「ごめんなさい」のあたたかい言葉づかいができています。(保護者用)

〈設問3〉

(毎月の目標読書冊数は 高学年5冊 中学年7冊 低学年10冊)

子どもは、読書の習慣がついている。(教職員用)

まい月、決まった目標のさつ数、本が読めている。(児童用)

子どもは読書の習慣がついている。(保護者用)

〈設問4〉

子どもは、学習用具の準備がきちんとしてできている。(教職員用)

いつも学習用具の準備ができている。(児童)

子どもは学習用具の準備ができている。(保護者)

〈設問5〉

子どもは、毎日、(10×学年)分間以上、家庭学習をしている。(例3年10×3=30分(教職員用))

家で毎日決まった時間宿題や勉強ができている。(児童)

子どもは毎日(10×学年)分以上、家庭学習をしている。(保護者)

〈設問6〉

子どもは、授業の内容について理解できている。(教職員用)

いつも授業の内容がよくわかる。(児童)

子どもは授業の内容について理解できている。(保護者)

〈設問7〉

先生は、子どもをよく理解し、公平に評価している。(教職員用)

先生は、自分のことをよくわかってくれて、みんなに平等だ。(児童)

子どもは先生によく理解され、公平に評価されている。(保護者)

〈設問8〉

子どもや周りの友だちは、みんなに大切にされている。(教職員用)

クラスの友だちはやさしく、いじめたりしない。(児童)

子どもやまわりの友だちは、みんなに大切にされている。(保護者)

〈設問9〉

子どもは、毎日、登校班で仲良く安全に登校できている。(教職員用)

とうこうはんで、時間を守って仲良く登校している。(児童用)

子どもは、毎日、登校班で仲良く安全に登校できている。(保護者用)

〈設問10〉

「くらしのあゆみ」やおたよりを通じ、学校や子どもの様子を家庭の方によく分かるように伝えている。(教職員用)

「くらしのあゆみ」を毎日きちんと書いている。(児童用)

「くらしのあゆみ」やおたよりを通じ、学校や子どもの様子がよくわかる。(保護者)

〈設問11〉

学校は、子どもや保護者の相談に積極的に応じている。(教職員用)

先生は、こまったことをそうだんしたら、よくかんがえてしんせつにこたえてくれる。(児童用)

学校は、子どもや保護者の相談に積極的に応じている。(保護者)

3 考察

〈全般を通して〉

1 教員側の評価から

第1回調査と第2回調査を比較すると、11項目中10項目でA+B評価が増えている。特に<設問3>読書の習慣では「A+B評価」の割合の合計が18%、<設問6>授業の理解では13%も上昇している。

逆に、<設問5>家庭学習の時間についての項目のみ、「A+B評価」の合計が88%から85%へと、わずかではあるが低下している。

第1回調査、第2回調査とも、11項目中9項目が「A+B評価」の合計が80%を越えているが、<設問2>あいさつ、<設問3>読書の習慣の項目で、「A+B評価」が低くなっている。特に、<設問3>読書の習慣の項目では、第1回調査、第2回調査で、それぞれ「A+B評価」が40%、58%であり、第2回の評価が良くなっているが大変厳しい認識を示している。詳しくは、項目別の考察で述べたい。

2 児童の評価から

第1回調査と第2回調査を比較すると、すべての項目で「A+B評価」の合計が増えている。

第1回調査、第2回調査とも、11項目中10項目は80%を越えているが、<設問3>読書の習慣についてのみ「A+B評価」が61%、68%と低くなっている。

3 保護者の評価から

第1回調査と第2回調査を比較すると、11項目中5項目で「A+B評価」の割合が増えている。<設問1>楽しく学校生活を送っている、<設問4>学習用具の準備、<設問5>家庭学習の時間、<設問6>授業の理解、<設問10>「くらしのあゆみ」・おたより等による連絡の項目である。逆に、「A+B」評価が下がっているのは<設問3>読書の習慣、<設問9>登校班での登校、<設問11>学校は相談に応じているかの3項目である。いずれも、下がり方は1~3%ほどである。

<設問3>読書の習慣については、「A+B評価」の合計が、第1回調査、第2回調査とも、39%、38%と非常に低い。<設問5>家庭学習の時間についても、66%、67%と低い評価となっている。

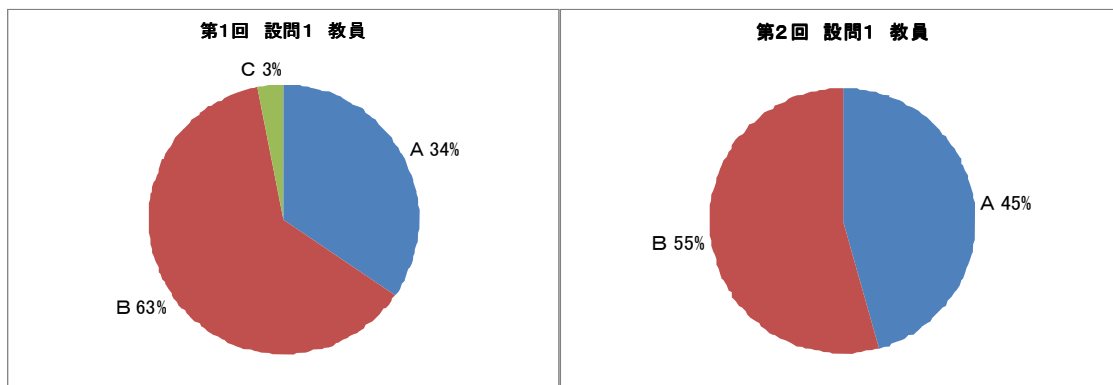
〈設問1〉 から

子どもは、楽しく学校生活を送っている。(教職員用)

毎日学校が楽しい。(児童用)

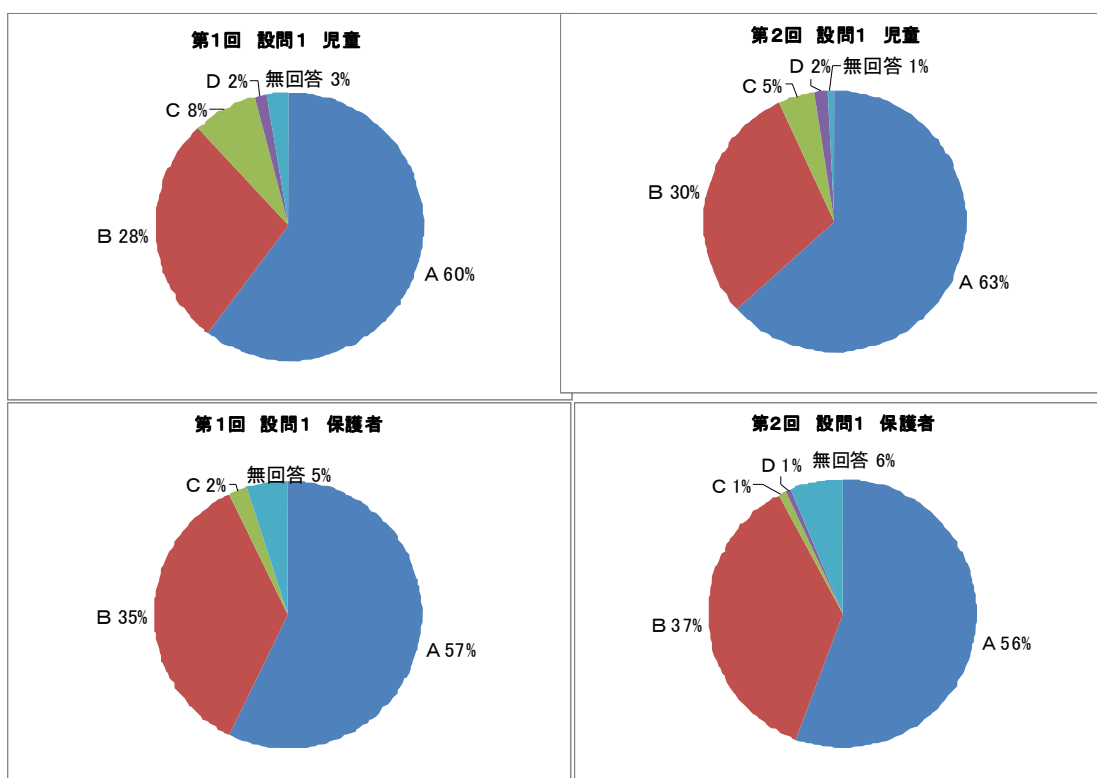
子どもは楽しく学校生活を送っている。(保護者用)

[教職員側の意識]



第1回の調査では「A+B評価」の合計は97%であったが、第2回の調査では100%となった。教員は、「児童は楽しく学校生活を送っている。」と考えているようである。

[児童・保護者側の意識]



第1回調査・第2回調査を通して、「A+B評価」は児童は88%、93%、保護者は92%、93%と非常に高い。多くの児童・保護者も「児童は楽しく学校生活を送っている」と感じているようだ。

[これからの取り組み]

第1回調査・第2回調査の児童の調査の中には、「C+D評価」も10%、7%とあり、これらの児童の気持ちを十分は把握できていない部分があるのではないかと。忙しい毎日であるが、教員たちは、児童の悩みや願い、楽しく感じていない理由をゆっくりと聞いてあげる必要がある。

不登校の傾向のある子や保護者への対応は、主に担任や副担任が行っているが、全教職員に共通理解を図り、いろいろなアイデアを出してもらったり、いろいろな場面でその子に合わせた指導をしてもらえるようお願いしたりしている。

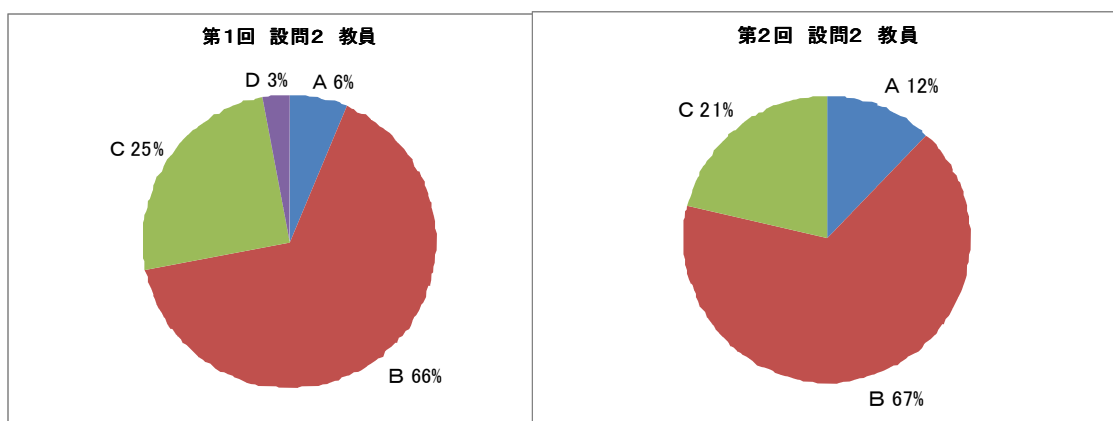
〈設問2〉から

「おはよう」などのあいさつや、「ありがとう」「ごめんなさい」などのあたたかい言葉づかいができています。(教職員用)

「おはよう」のあいさつや「ありがとう」「ごめんなさい」のあいさつが言えている。(児童用)

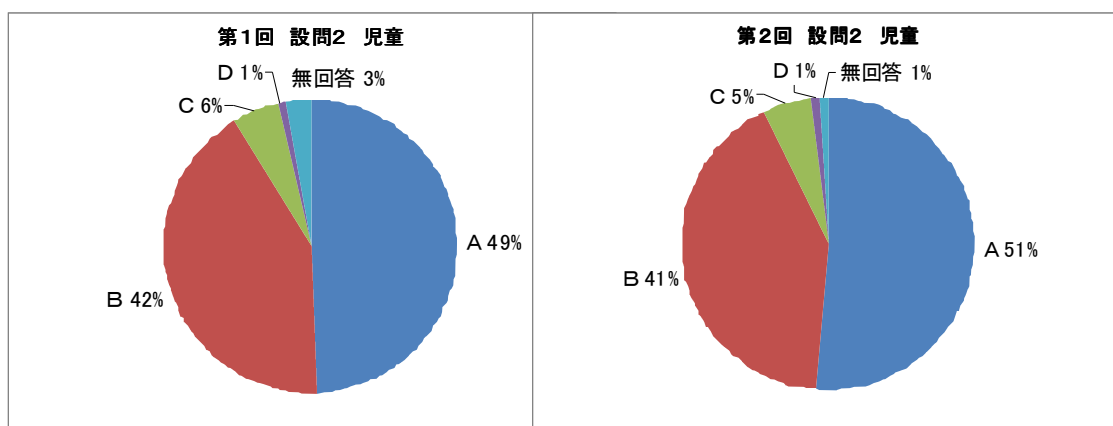
「おはよう」のあいさつや「ありがとう」「ごめんなさい」のあたたかい言葉づかいができています。(保護者用)

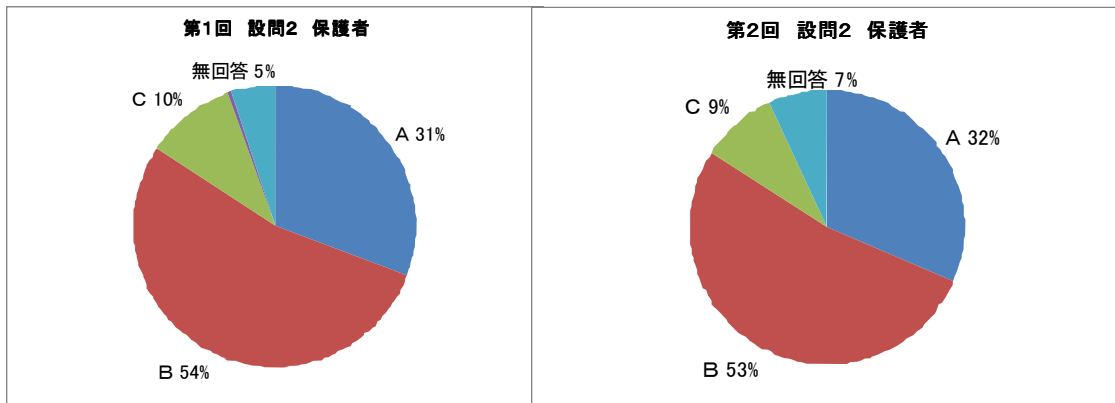
[教職員側の意識]



第1回調査、第2回調査の「A+B評価」は72%、79%とだんだん良くなっていると感じている。ただ、まだ、教職員があいさつをしても知らぬ顔をしたり、児童会の子もたちがあいさつ運動をしても無視をして通り過ぎたりする児童もいるようである。また、あいさつの声が小さく通らない児童もいるようで、繰り返しねばり強い指導が必要である。

[児童・保護者側の意識]





第1回調査、第2回調査の児童の「A+B評価」は、91%、92%と非常に高い。保護者の側は2回とも85%であり、おおむね良い評価といえる。

ここ何年か、あいさつについて危機意識を持ち取り組んできた成果が少しずつ現れてきているのではないかと感じている。しかし、教職員相手だけでなく、交通指導をしてくださっている保護者や地域住民の皆さんなどにもきちんとしたあいさつができるよう、量から質的な充実を図ることを目指して指導をしなければならないと感じた。

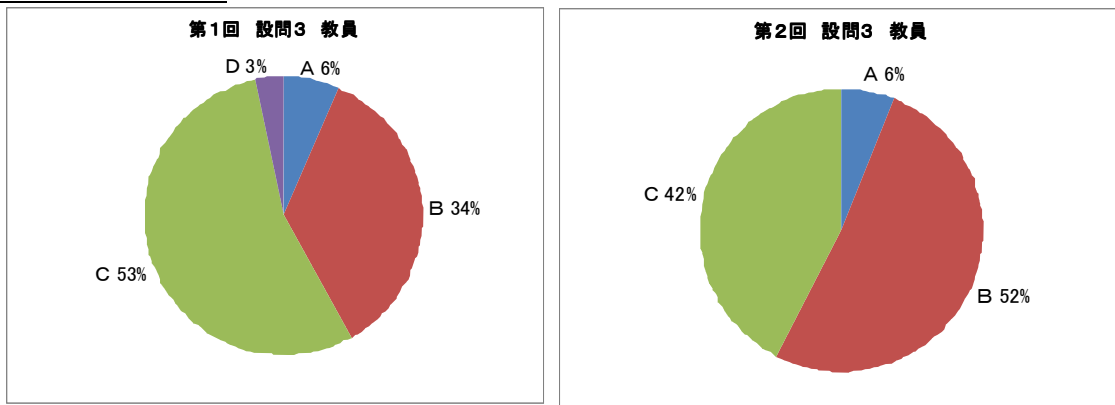
[これからの取り組み]

あいさつに対して学校やPTAで取り組んできた「あいさつ運動」や、毎朝、校長が校門前の交差点で交通指導をしながらあいさつをしている取り組みが、実を結びつつある。しなくなると元に戻ってしまうので、常に注意喚起しなくてはならない。

〈設問3〉 から

(毎月の目標読書冊数は 高学年5冊 中学年7冊 低学年10冊)
 子どもは、読書の習慣がついている。(教職員用)
 まい月、決まった目標の冊数、本が読めている。(児童用)
 子どもは読書の習慣がついている。(保護者用)

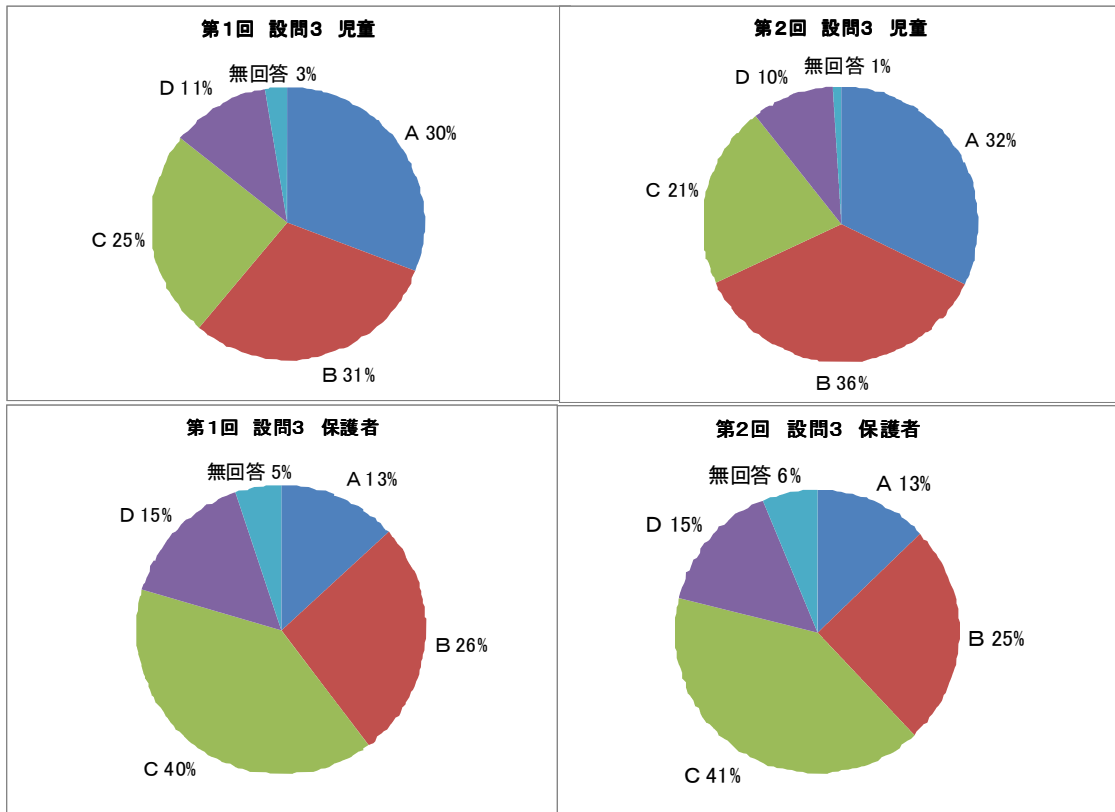
[教職員側の意識]



第1回調査、第2回調査の「A+B評価」は40%、58%であり、2回目は良くなってきているが、非常に低い評価である。

[児童・保護者側の意識]

第1回調査、第2回調査の児童の「A+B評価」は61%、68%であり、保護者の「A+B評価」は39%、38%と非常に低い。



保護者の「A+B評価」を学年別にみても、第1回では1年生から順に、35%、40%、41%、37%、35%、48%であり、第2回でも38%、34%、36%、28%、42%、47%とどの学年でも低い。

[これからの取り組み]

本校では、2年生の時に親子読書という形で、年6回、保護者による本の読み聞かせを行っている。他の学年でも読書サークル「れいんぼう」による読み聞かせを行っている。また、学校に読み聞かせ用の本は揃えて、啓発活動を熱心に行っている。ただ、休み時間に静かに本を読む時間が減ったり、学習内容の多様化により学校が設定して本と親しませる時間（朝の読書タイムなど）が減ったりしているのは事実である。子どもたちは土日も忙しく、学校でも家庭でも本を読む余裕がなくなっているともいえる。

忙しい学校生活・家庭生活であるが、もっと本を借りに行く機会や読書の時間を設定したり、放送などで毎月のように新しい本を紹介したりして興味を持たせ、限られた時間の使い道として読書を選択しやすくすることも大切であると感じている。

読み聞かせや講演会をしたり、お薦めの本を家庭に紹介するなど家庭への啓発も行っていきたい。

〈設問4〉から

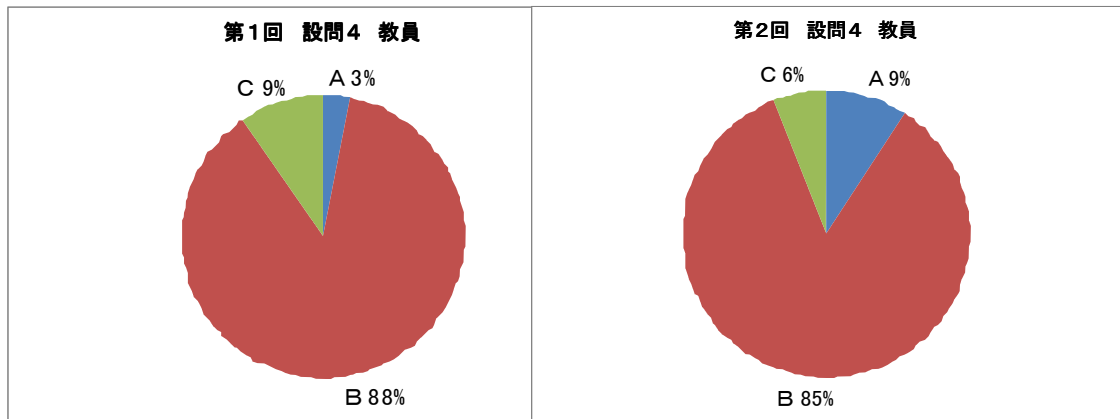
子どもは、学習用具の準備がきちんとできている。(教職員用)

いつも学習用具の準備ができている。(児童)

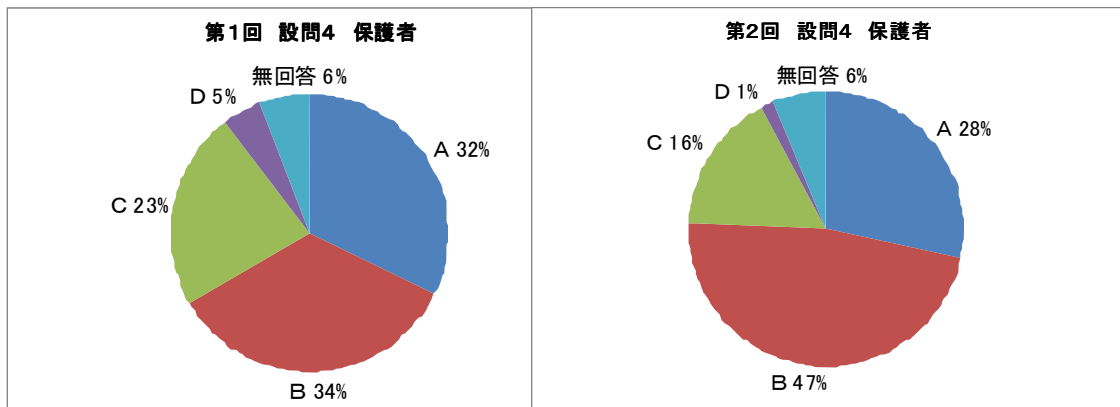
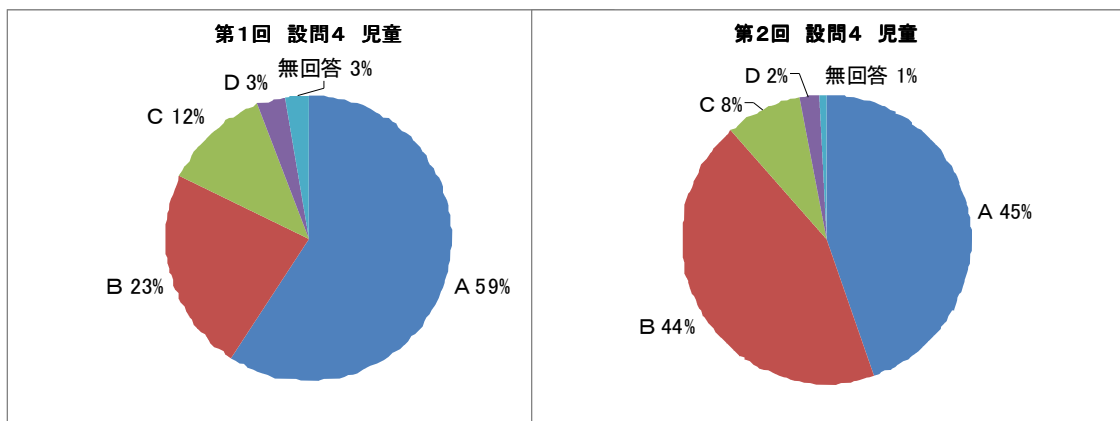
子どもは学習用具の準備ができている。(保護者)

[教職員側の意識]

第1回、第2回とも、「A+B評価」が91%、94%と高い値を示している。学習準備については、ほぼよくできていると感じている教職員が多い。



[児童・保護者側の意識]



児童の「A+B評価」は第1回調査，第2回調査でそれぞれ82%，89%であり，保護者はそれぞれ66%，75%である。児童の方はきちんとできていると感じているが保護者の見方はやや厳しい。いずれも1回目よりは，2回目のほうがよくなっている。

[これからの取り組み]

教職員・児童の評価は高いのに，保護者の学習準備への評価はやや厳しい。連絡帳のチェックだけでなく，学校へ準備する物のチェックシート等を利用し，普段からきちんと準備をする習慣づけを繰り返し行う必要がある。

また，子どもたちに具体的・継続的に指導するとともに学年通信や学年懇談で保護者に協力を呼びかけていきたい。

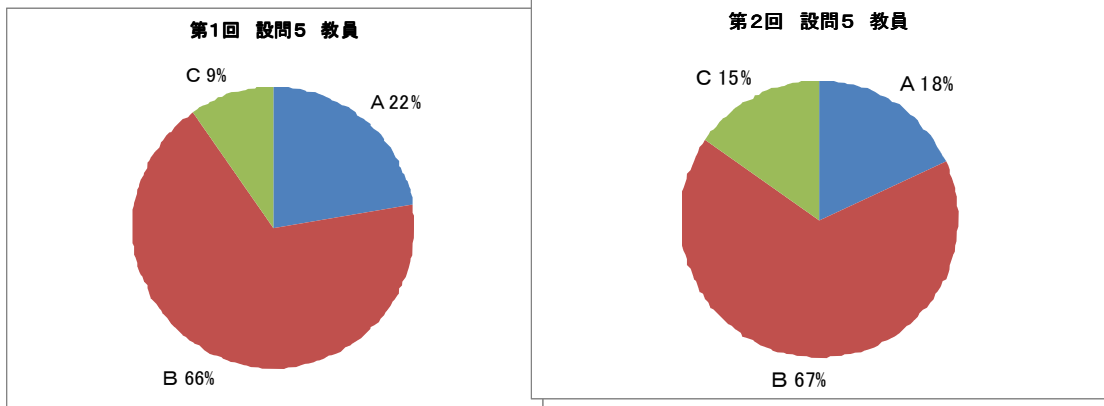
〈設問5〉 から

子どもは、毎日、(10×学年)分間以上、家庭学習をしている。(例3年10×3=30分) (教職員用)

家で毎日決まった時間宿題や勉強ができています。(児童)

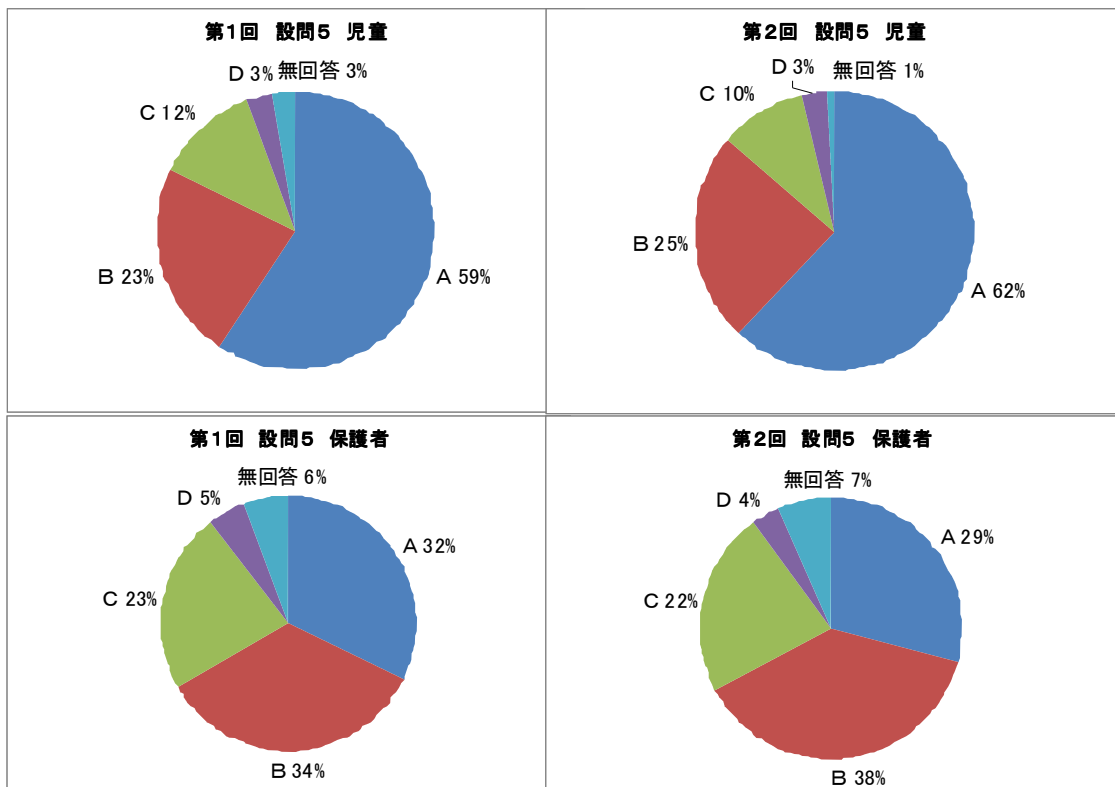
子どもは毎日(10×学年)分以上、家庭学習をしている。(保護者)

【教職員側の意識】



第1回・第2回とも、「A+B評価」が88%、85%と高い値を示している。宿題などの提出状況がよくなり、家庭学習がよくできていると感じている教職員が多いと思われる。

【児童・保護者側の意識】



児童の第1回調査、第2回調査の「A+B評価」は82%、87%であり、保護者は、66%、67%である。児童の自己評価は甘く、保護者の評価はやや厳しい。教職員・児童は宿題の提出状況などで判断するが、保護者は宿題以外の家庭学習を期待していると思

われる。

[これからの取り組み]

宿題ができれば終わりではなく、自分で自主的に学習できるように自主勉強の仕方を学年で相談していきたい。指導の熱心なクラスでは、1年間の学習の量を児童自ら確認させるため、学習に使って終わったノートや自主勉強ノートを順に積み上げ励みとしていた。学校全体で家庭学習の方法や自主的な学習の促し方等について共通理解が必要だと感じている。

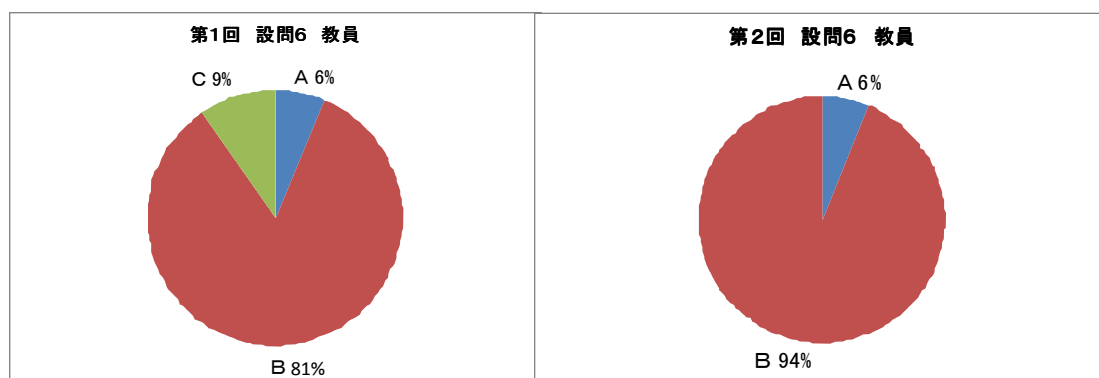
〈設問6〉から

子どもは、授業の内容について理解できている。(教職員用)

いつも授業の内容がよくわかる。(児童)

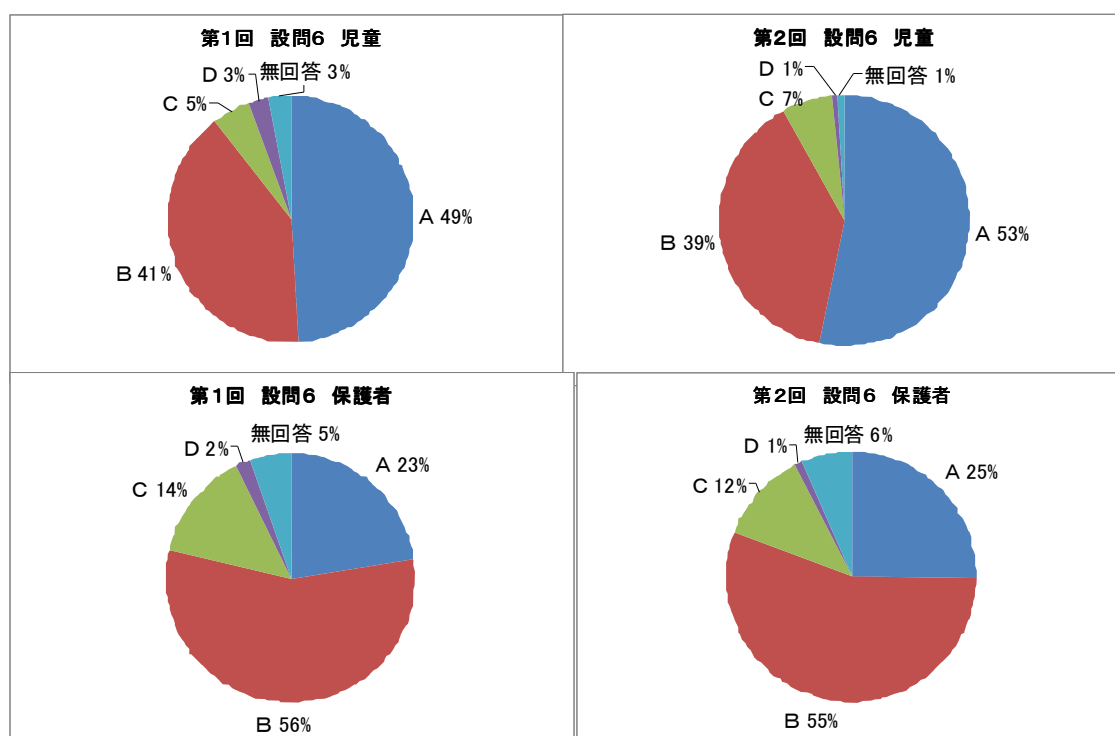
子どもは授業の内容について理解できている。(保護者)

[教職員側の意識]



第1回調査、第2回調査の「A+B評価」の割合は87%、100%であり、2回目の調査では特に、授業の理解はできていると考えている。

[児童・保護者側の意識]



第1回調査、第2回調査の児童の「A+B評価」の割合は90%、92%であり、保護者は、79%、80%となっている。児童は10%程度、保護者は20%程度が理解できていないと回答している。

[これからの取り組み]

保護者は学習が定着して初めて、学習が理解できていると判断する。授業中、TTなどのおかげで学習中の理解はずいぶん進んだと思う。しかし、定着させるためには復習やテストに向けての学習が必要だといえる。自ら学ぶ態度を育成するために、学習の進め方などに工夫が必要であり、そのための研修が必要である。

近年、授業にICTを導入する環境が整備されてきた。電子黒板や実物投影機、コンピュータの導入により、多様な説明の方法がとれるようになってきた。研修の機会を増やし、わかる授業の研究を深めていきたい。

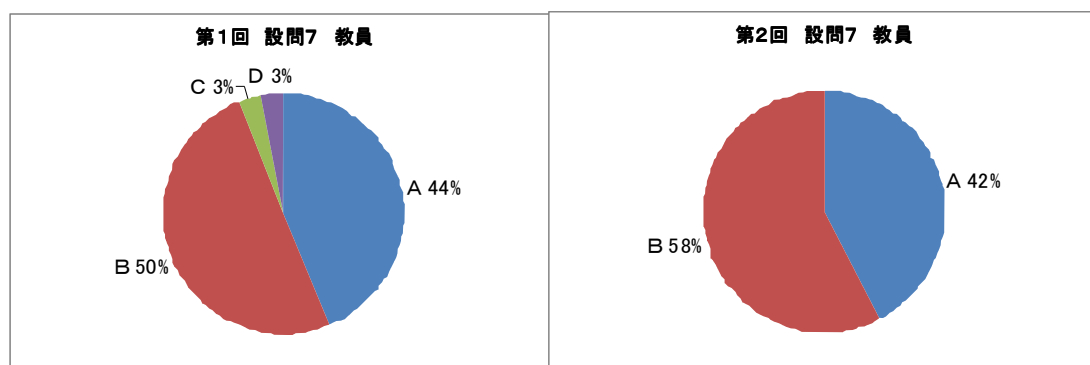
〈設問7〉から

先生は、子どもをよく理解し、公平に評価している。(教職員用)

先生は、自分のことをよくわかってきて、みんなに平等だ。(児童)

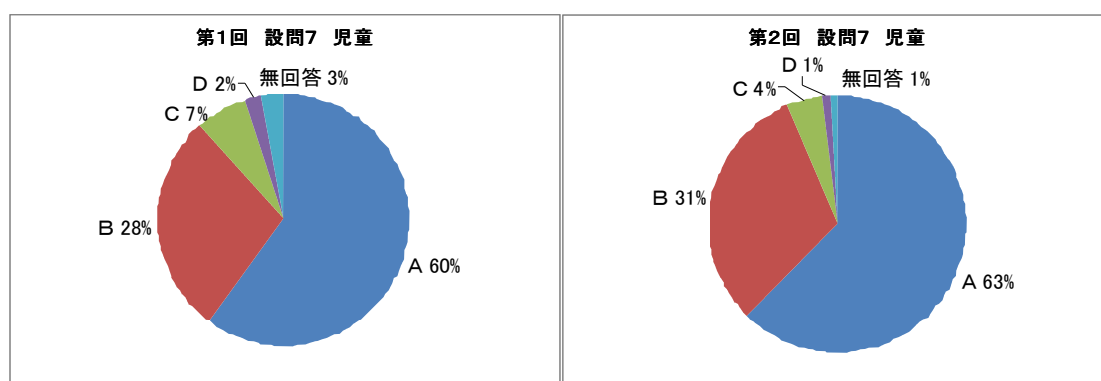
子どもは先生によく理解され、公平に評価されている。(保護者)

[教職員側の意識]

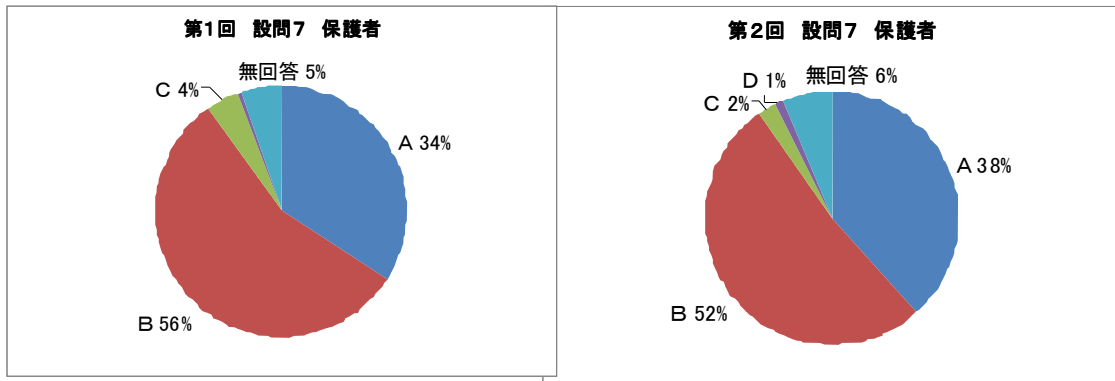


第1回、第2回とも「A+B評価」が94%、100%である。自分のことはなかなかわからないが、第1回調査にC・D評価が1人ずついることは問題であり、児童理解や公平な指導について職員全体で研修の機会を持った。

[児童・保護者側の意識]



児童の第1回調査、第2回調査の「A+B評価」の割合は88%、94%であり、保護者の方は両方とも90%であった。「C+D」評価の児童・保護者も一定数おり、不満を持っている児童・保護者の存在に気付かされる。



[これからの取り組み]

児童同士のトラブルなど双方が自分の悪いところを理解し仲直りをして、両方の保護者がきちんと納得できれば一番良いが、解決が難しい事例が増えてきている。忙しかったり、解決を急いだりすると両者の言い分を十分聞けない。そこで、少なくとも、事情を聞く際に他の教職員が十分にサポートできるような協力体制を組むよう努めている。また、直接保護者との対応にあたるのは担任であることが多いが、同じ学年の教員や生徒指導の教員、管理職に関わってもらうことも増えてきた。より多くの教職員に関わってもらい、意見を交換しながらよりよい方向を目指したい。

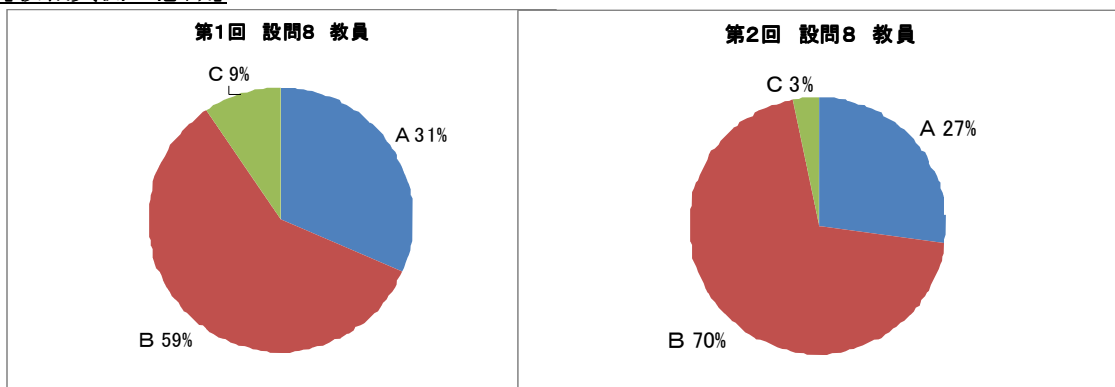
〈設問8〉 から

子どもや周りの友だちは、みんなに大切にされている（教職員用）

クラスの友だちはやさしく、いじめたりしない。（児童）。

子どもやまわりの友だちは、みんなに大切にされている。（保護者）

[教職員側の意識]

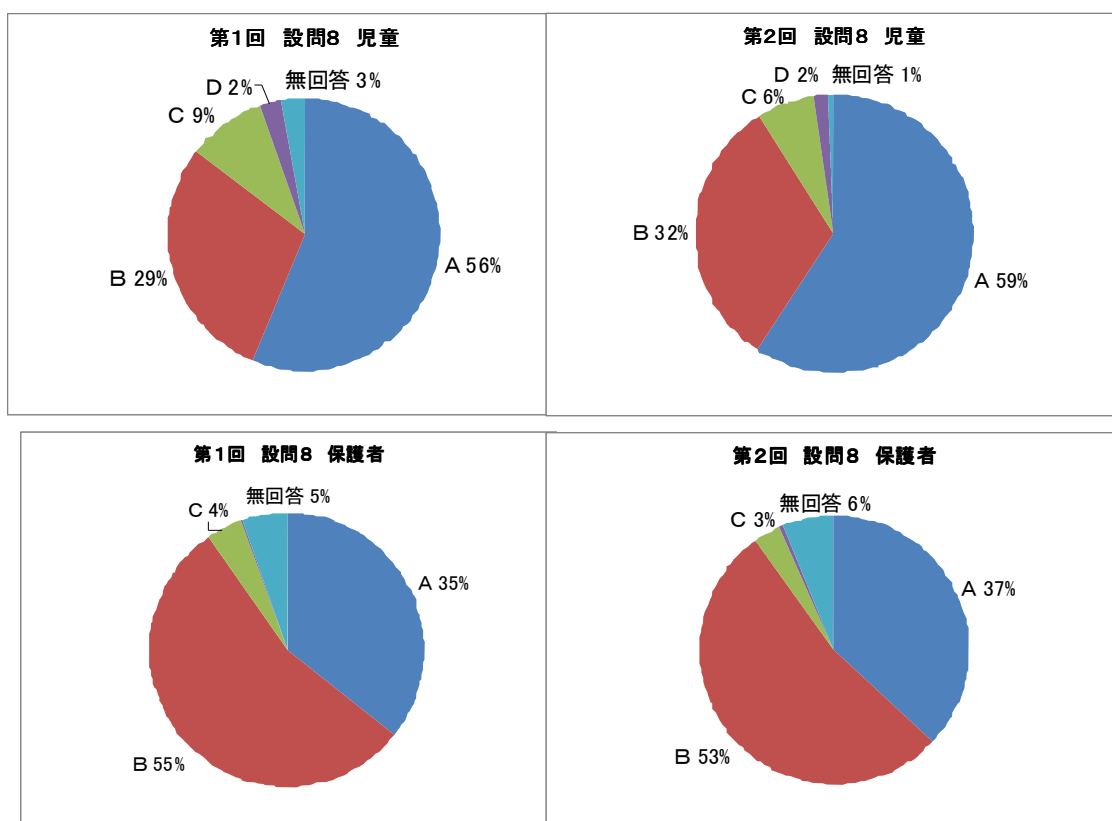


第1回、第2回の「A+B評価」の割合は90%、97%であり、ほぼ仲間作りができていると考えている。

[児童・保護者側の意識]

児童の第1回調査、第2回調査の「A+B評価」の割合は85%、91%であり、保護者は両方とも90%となっている。

「C+D」評価の児童数をみると、第1回、第2回では57名、46名となっており、各学年に一定数がある。教職員が考えている以上につらい立場にいると考えている児童がいることを理解しながら仲間づくりを目指す必要がある。



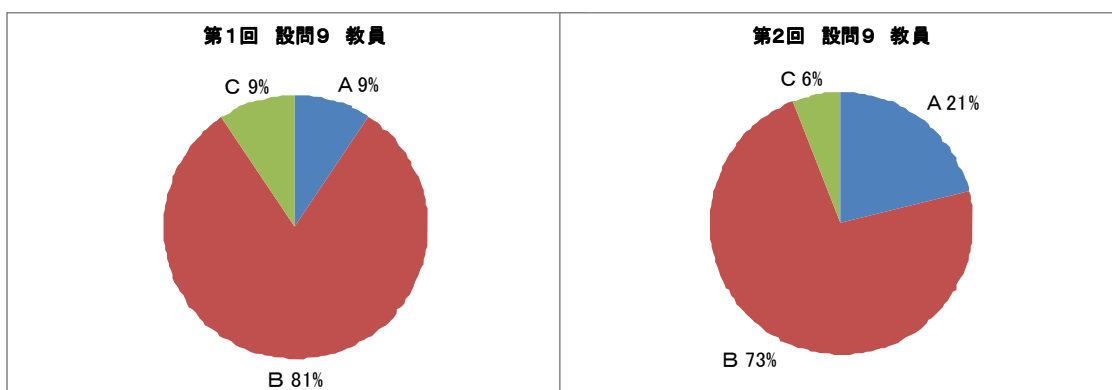
[これからの取り組み]

クラス分けの時点から配慮し、十分指導しているつもりであるが、毎年、友達同士の関係の中で問題が出てくる。1年生の時から綴っている生徒指導個票により小さい時からの人間関係を掴む作業はできているが、さらに仲間づくりや人間関係づくりの研修を進める必要がある。

〈設問9〉 から

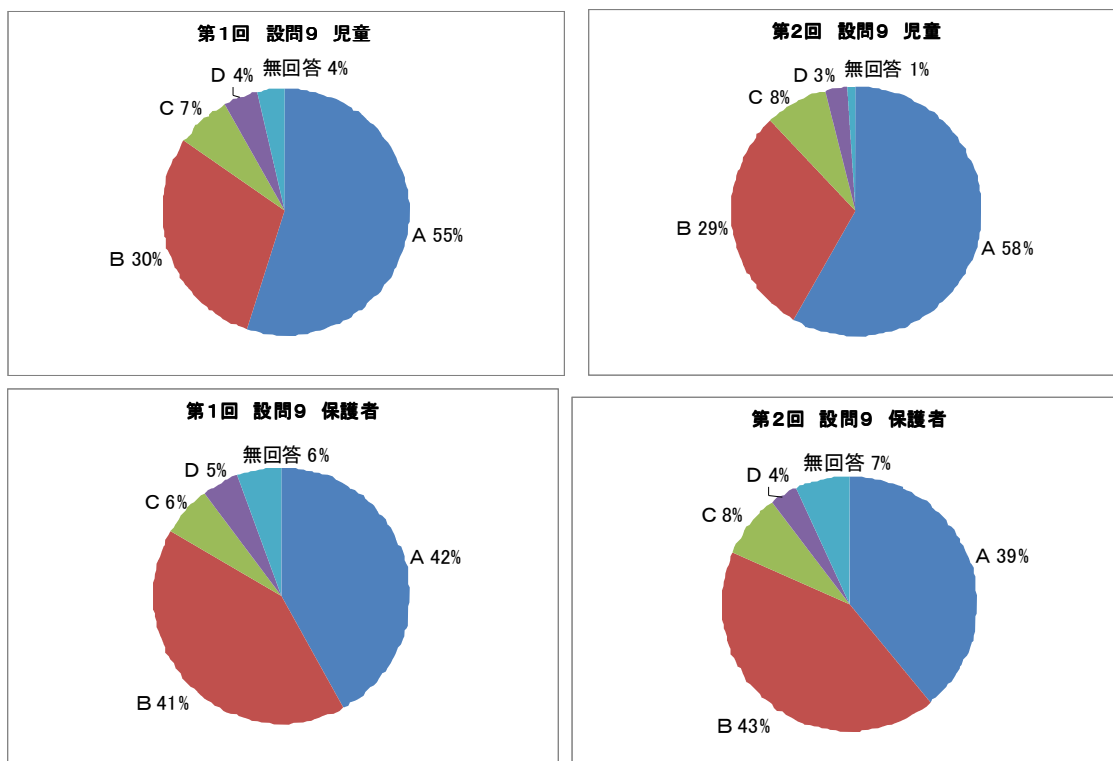
子どもは、毎日、登校班で仲良く安全に登校できている。(教職員用)
 とうこうはんで、時間を守って仲良く登校している。(児童用)
 子どもは、毎日、登校班で仲良く安全に登校できている。(保護者用)

[教職員側の意識]



第1回、第2回調査の「A+B評価」の割合は、90%、94%であり、ほぼできているととらえていると思われる。

[児童・保護者側の意識]



児童の第1回調査、第2回調査の「A+B評価」の割合は85%、87%であり、保護者の方は83%、82%となっている。

[これからの取り組み]

第1回・第2回を通して、保護者・児童ともに「A+B評価」が80%を超えている。しかしながら地方によっては、学校に着くころには多くの班がきちんと集団登校できていないという報告もある。保護者は自宅周辺で集合できていればきちんと登校できていると判断する場合も多いのではないかと感じる。スクールゾーンに入った途端、列が乱れている現状などをしっかりつかんで、個別に保護者へと伝えていく必要を感じている。保護者の交通指導ノートに書かれている内容などを、全家庭へとしっかり知らせたい。また、毎朝夕にたくさんの送り迎えの自動車が並んでいる。体調が悪い児童もあり、強い指導はできない現状であるが、歩いて登校することの大切さをもっと伝えたい。

〈設問10〉 から

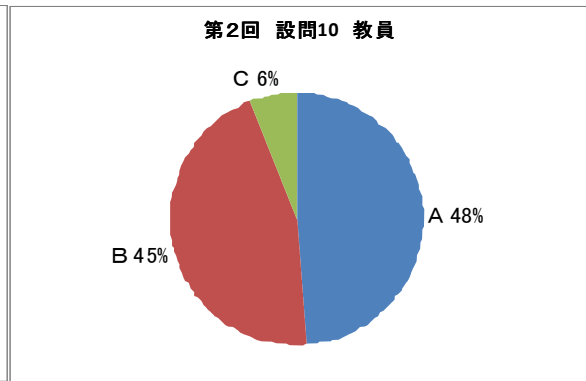
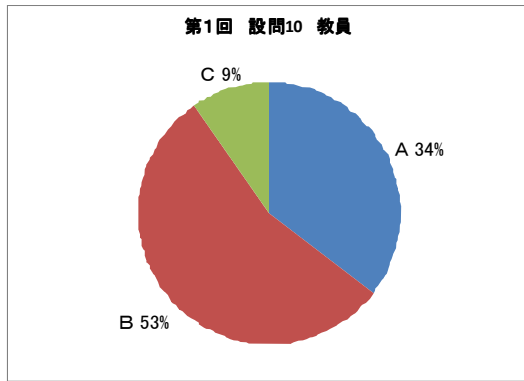
「くらしのあゆみ」やおたよりを通じ、学校や子どもの様子を家庭の方によく分かるように伝えている。(教職員用)

「くらしのあゆみ」を毎日きちんと書いている。(児童用)

「くらしのあゆみ」やおたよりを通じ、学校や子どもの様子がよくわかる。(保護者)

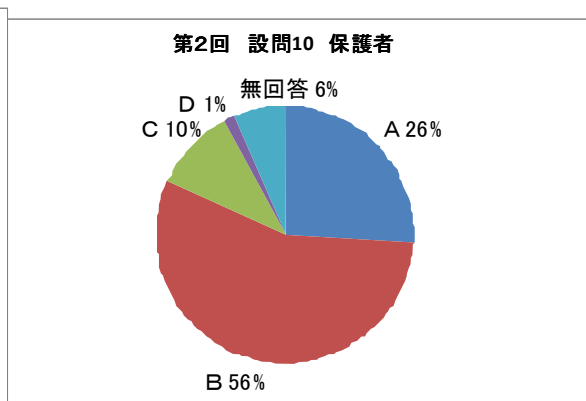
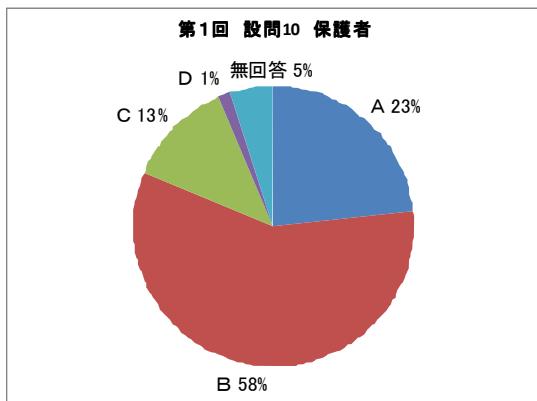
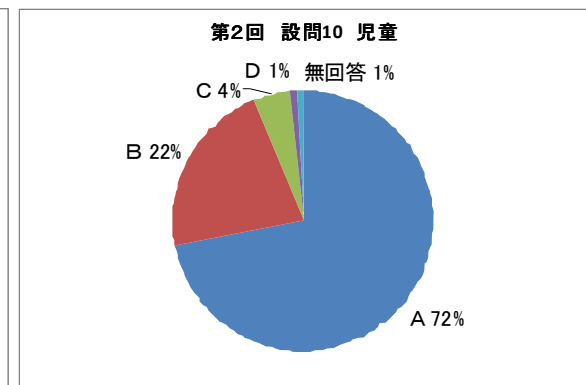
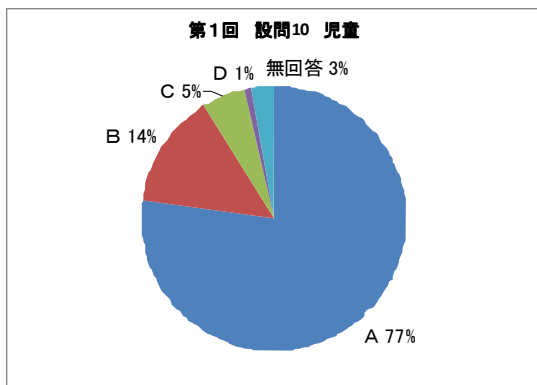
[教職員側の意識]

第1回調査・第2回調査の「A+B評価」の割合は87%、93%であり、特に2回目はきちんと学校の様子を伝えていると考えてるようだ。



[児童・保護者側の意識]

児童の第1回調査，第2回調査の「A+B評価」の割合は91%，94%であり，保護者の方は81%，82%となっている。



[これからの取り組み]

第1回・第2回ともに，児童では「くらしのあゆみ」を毎日きちんと書いていると考えている児童が「A+B評価」で90%を超えている。しかし，くらしのあゆみやお便りの内容だけでは学校の様子がよくわからないと考えている保護者が1回目，2回目で79名，67名（「C+D評価」）いる。

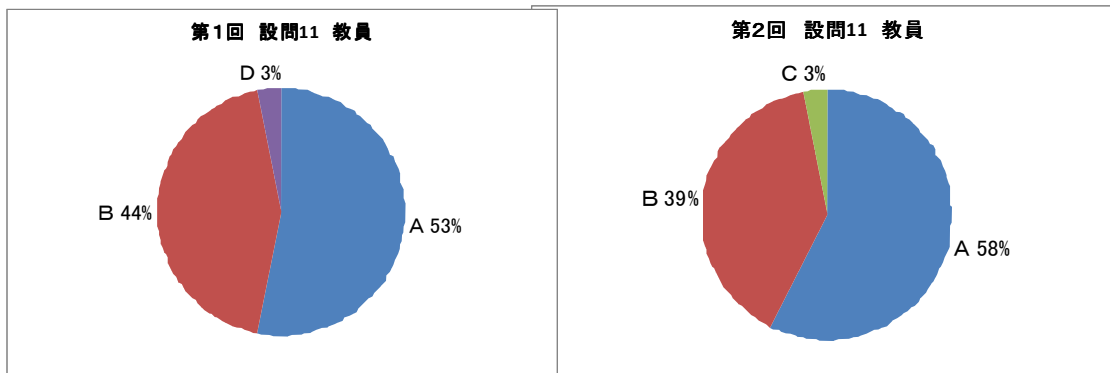
学校は家庭訪問や年2回の懇談を行い，毎月の学年便りを出している。また，病気や何かの際には保護者にできるだけ連絡するようにしている。しかし，なお，保護者の欲しい情報は何か，その情報はお伝えできるものなのかをよく吟味して情報を出していきたい。

学年便りでは写真などを取り入れて言葉以外で目にとまるようにしたり，「くらしのあゆみ」では，行事があるときにはテーマにして日記を書かせるようにしたりしていきたい。

〈設問11〉 から

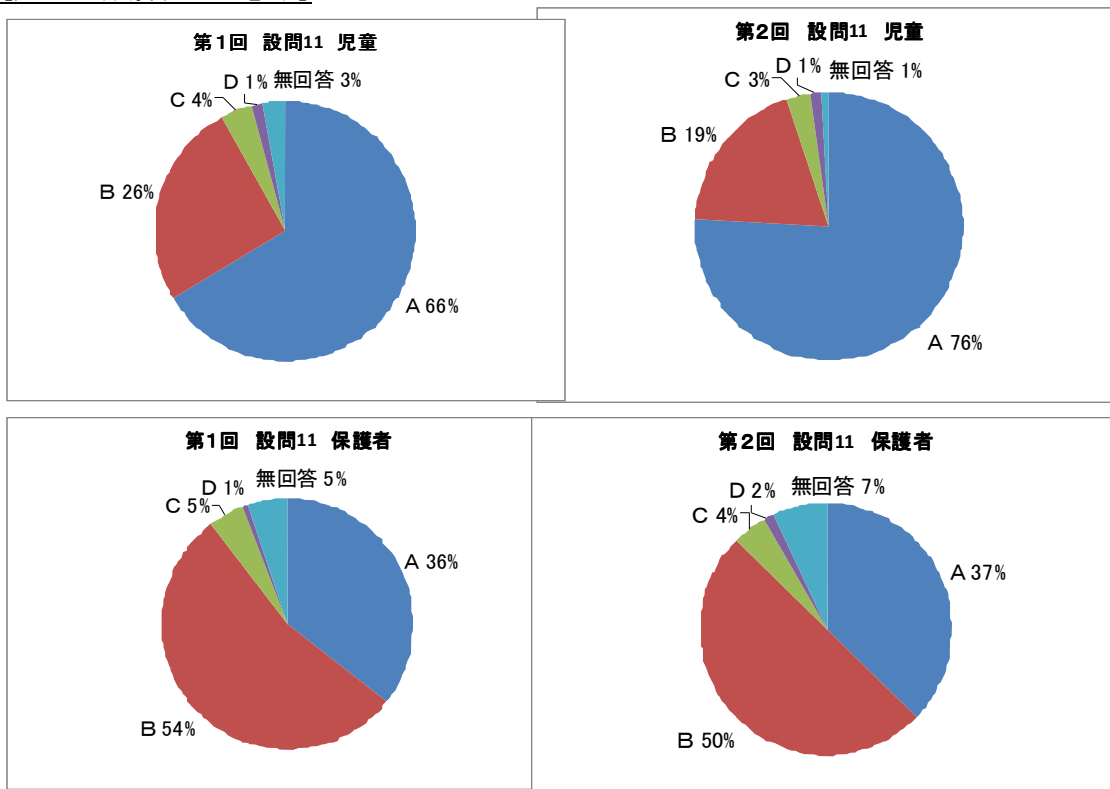
学校は、子どもや保護者の相談に積極的に対応している。(教職員用)
先生は、こまったことをそうだんしたら、よくかんがえてしんせつにこたえてくれる。
(児童用)
学校は、子どもや保護者の相談に積極的に対応している。(保護者)

【教職員側の意識】



第1回、第2回調査で「A+B評価」の割合がともに97%であり、教職員の方は子どもや保護者の相談に積極的に対応していると考えている。

【児童・保護者側の意識】



第1回調査、第2回調査における児童の「A+B評価」の割合は92%、95%であり、保護者は90%、87%となっている。

【全体を通して】

児童の「A+B評価」をみると2回とも高い値を示しているが、保護者は、学年により評価が高いところと、評価が低いところとあるので、相談の応じ方について、研修を

していく必要があると思われる。

少ないが1回目も2回目もD評価の児童がいるので、何か相談があるときにいていねいに対応できていたか、保護者への説明をきちんとして、納得のいく対応ができたかをきちんと確かめなければならないと感じている。

Ⅲ 学校関係者評価から

① 学校評議員の方には、次の行事の時に案内しご参観いただいている。

- ・入学式（4月9日） ・運動会（10月6日）
- ・オープンスクールによる授業参観（10月29日）
- ・学習発表会・校内発表会（11月23日） ・卒業式（3月15日）

行事ごとに、感想をいただいている。本年度は、「よく練習されている。」「落ち着いて学習に臨んでいますね。」などのご意見をいただくことが多かった。

② アンケート項目に対する評価

11月21日、学習発表会校内発表会の後に学校評議員の方4名に集まっていただき、第1回学校評価アンケート結果と取り組みの説明をもとに、ご意見を伺った。

副校長の方から一通り説明を行い、気になる点について質問があった。特に家庭での読書を増やすためにどのような対策を考えて実行しているのかを質問された。

家庭での読書を増やすために、石井小学校では次のような方策をとっているという説明を行った。

（ 読書を盛んにするための取り組み ）

石井小学校

1 読書に関心を持ってもらうために。

①先生による読み聞かせ

相談室に読み聞かせ専用の本を置き、朝の活動の時間などに読んでいます。

②親子読書

2年生のみ、年6回。読書活動を通して、親子のふれあいを深め読書の習慣を身につけさせる。

③親子読書サークル「れいんぼう」

保護者の自主的なサークル活動。読み聞かせ・ペープサート・エプロンシアターなど、様々な手法・形態で読書活動し、子どもたちに読書の喜びを体験させ、本に親しみを持たせている。全学年の児童に読み聞かせを行うとともに、2年生保護者の親子読書活動に対する指導・助言も行っている。

④読書フェスティバル

図書委員会により啓発活動。

3学期にワークスペースで行っている。

昨年度 低学年向け … 絵本の読み聞かせ 中学年向け … 辞書引き
高学年向け … 読書クイズ

2 実際に読書をするために

①朝の活動の時間（8:15～8:35）

木・金 朝の読書の時間になっている。

②宿題に読書を出し、毎月の目標冊数を設定し、読書を促す。

（低学年10冊、中学年7冊、高学年5冊）

③読書の記録カードをもとに読書賞を設定している。

金賞・銀賞・銅賞（前期・後期で表彰）

④ワークスペースや学年準備室にも本をたくさん置き，本を借りやすくする。

⑤学年ごとにおすすめ図書を選定し，設置する。

評議員の方からは，①最近の子どもたちは本を読まなくなっていると感じていること，②たくさんの取り組みがなされているがすぐに効果がでると期待せず，積み重ねが大切であること，③先生の読書習慣の有無が大切であること，などのご指摘があった。